

「ことばのカトリアル第10号」

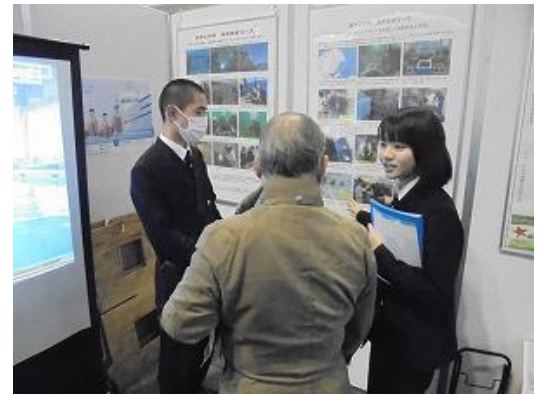
「海洋技術コース 京都環境フェスティバル 2019」

令和元年 12 月 7 日（土）及び 8 日（日）京都パルスプラザを会場に、「京都環境フェスティバル 2019」が開催されました。本校からは海洋技術コースが出展ブースにおいて、ヒトデ堆肥の販売をするるとともに、海洋高校及び海洋技術コースの取組を紹介しました。

出展ブースには、多くのお客様が来られ、海洋技術コースの環境に関わる取組に興味を持っていただきました。生徒は、自分たちが行っている研究内容をお客様に理解していただくように説明しました。

3年 節安 歩冬

前回参加したイベント「府民交流フェスタ」より、販売した堆肥の数は少ないですが、販売方法などを改善して接客することができました。また、他のブースを見学に行くと、私たちよりも深く専門的なことに取り組んでいる方と話すことができ、よい経験になりました。今回の実習で、販売する大変さを改めて認識できました。また、堆肥の販売をする機会があれば参加したいと思います。



3年 坂本 ほのか

今回の堆肥販売では、お客様への話し方や対応方法については少し経験したことがあったので、スムーズに販売することができました。一緒に販売していた 2 年生のお手本になれていたらうれしいです。環境フェスタの会場ではたくさんのブースがあり、環境についてのクイズや電気を作る体験をしました。その他にも、リサイクルについて学ぶことができたので、これからの生活に役立てていきたいと思いました。

2年 坂本 優真

今回、環境フェスタ 2019 に参加し、学んだことがあります。1 つ目は、お客様に対する態度です。話す時に「目を見て話す」簡単に思える行動は実際やるととても難しかったです。2 つ目は、相手（お客様）の立場にたって考えることです。お客様がどのようなことに興味があり、どのようなものが欲しいかを想像し、会話をしました。また、ブース横に設置してあるクイズに来られたお客さまと話すことで、私たちのブースも見学していただくことができました。話し方一つで相手の対応が変わるので、丁寧な言葉遣いを心がけたいです。



2年 宮岡 大河

今回の環境フェスタでは、自分たちの学校のことをアピールするとともに、さまざまな環境について学ぶことができました。ブースの仕事を交代しながら、さまざまなブース見学をする中で、海ごみの問題は衝撃でした。亀の甲羅を变形させたりマンボウの死亡原因となっていたり、また、海そのものを汚しているなど、環境についてもっと知る必要があると思いました。

ブースに来ていただいた方々は、今の地球環境について詳しく話をしてくださり、環境フェスタは新しい知識が身に付いて、とてもよい機会でした。

2年 山崎 海晟

京都パルスプラザで学校紹介を兼ねてヒトデ堆肥を販売しました。私は人前に立ってものを販売することは初めてでした、最初はうまく話せるか不安でしたが、実際にヒトデ堆肥を販売したり、学校のことをお客様に聞かれた際には、自分なりにはうまく対応できていたと思いました。お客様と話しているときは笑顔が大切であることを先生に教えていただき、経験しないとわからないことがあると思いました。今回のイベントを通して、人と関わる時は自分のことではなく、お客様がどう思っているのかを考えることが大切だと思いました。

2年 木村 翔

今回、初めてこのようなイベントに参加することができ、学ぶことや成長できたことが多くありました。最初はあまり声をかけたりすることができませんでした。慣れていくことで自分から話したり、質問にうまく答えることができるようになりました。この質問に対する答えはしっかり一つ一つを理解していることが重要だと感じました。私もわからないことがあり、先生に質問することで理解し、お客様にも正しい答えを返すことができました。また、このイベントはすべてのブースが環境についてのものだったので、環境について多く学び、知ることができました。今回の学びを生かすために、環境についてもっと考えていきたいと思いました。

2年 鈴木 雅斗

学校外でのボランティアに参加して、人と話すときは「どのようなことを意識すればよいのか」ということを学びました。私たちは普段から堆肥について学んでいます。しかし、今回の環境フェスティバルでは海洋高校を知らない人がたくさんいるので、今までのような話し方や態度ではダメだと感じました。相手の方は何も知らないなので、相手が分かるよう段階的に、一つずつ理解していただける説明をすることが大切だと学びました。

2年 小藪久瑠斗

今回の環境フェスタ2019では、海洋高校についての説明や堆肥の効能について、主に京都市内の方に知っていただくことができました。環境フェスタではさまざまな事業所のブースがあり、クイズやアンケートに答えると景品がもらえるなど、楽しみながら自然や環境の現状と、どのようなことに取り組んでいるかを来場者へ知ってもらう工夫がされており、どちらにもメリットがあり素晴らしいと思いました。難しい話もわかりやすく誰にでもわかるようにされていたので、今後の私たちの説明に活かしていきたいと思います。今回の環境フェスタで得た知識を、多くの人に伝えたいと考えています。

2年 小川 大哉

今回の京都環境フェスティバルを通して、私が必要だと思った力は、コミュニケーション能力と積極性です。なぜかというと、相手から来るのを待っていてはお客さまを呼び込むことはできないし、コミュニケーション能力がないと伝えるべきことが相手に伝わらないと思ったからです。そして、ほかのブースをみて、私たちのブースにはない、相手に興味を抱かせるような呼び込みはもちろん、相手に伝わってほしい要点が理解できるような説明だったので、私もほかのブースを参考に、来年に生かしたいです。

2年 須藤 智也

今回、京都環境フェスティバルに参加して学んだことは大きく2つありました。まず1つ目は、さまざまな高校や大学のブースに参加して、今の日本の環境の状態や深刻さを知ることができました。そして、どの学校も非常に工夫されていると思いました。

2つ目は、お客様を自分たちのブースへ呼ぶことの難しさです。今まではあまりこのようなことをしたことがなかったので、最初は本当に苦労しましたが、積極的に挑戦して、何とかお客様に説明することができるようになりました。今回の貴重な体験を無駄にしないように、これからもボランティア活動等に積極的に参加しようと思います。

2年 田中 海人

今回、環境フェスタに参加し、さまざまなことを学び吸収しました。京都の各地から企業が参加されており、貴重な体験をさせてもらいました。販売するときには人の目を見て話すなど、海洋高校で日頃から行っていることでしたが、知らない人にするときには緊張し、自然と声が小さくなってしまいました。また、私たちが作っている堆肥が、学校外で売られている様子を初めて見ました。購入されている方はさまざまで、海洋技術コースの堆肥は他のブースに比べ、客足や売上が正っているようでしたが、接客は今の言葉遣いではダメだと思いました。あと1年で高校を卒業し社会に出るので、改善していきたいです。